競争力強化のための現場カイゼン活動と販路開拓

支援機関 公益財団法人えひめ東予産業創造センター　支援内容 生産性向上および販路開拓支援　支援区分 ものづくり

有限会社 佐々木組

事業者概要

社　　名／有限会社 佐々木組
代表者名／代表取締役社長　秋田　華佳
業　　種／製缶・溶接、産業用機械部品の製造
所 在 地／本社：新居浜市磯浦町9-22
資 本 金／10,000,000円
設　　立／昭和55年５月
従業員数／23名

支援に至る経緯

有限会社佐々木組（以下、「当社」という）は産業用フレームの製缶、溶接加工、レーザー切断、筐体製作などを得意としている。小型部品から大型製缶品まで小ロットや短納期対応にも対応し、精度の要求される半導体製造装置フレームも手掛けている。

客先からの品質、納期に関する要求は年々厳しくなってきている。人員も限られており日々仕事に追われ、それも限界に近付いていた。

そんな中で当社では、経営者の交代をきっかけにこのままではいけないとの強い思いから、えひめ東予産業創造センターのビジネススクールへ参加したのが支援の始まりだった。そこでは自社を徹底的に見つめ直し解析し経営戦略を学んだ。

支　援　内　容

まず取り組んだのが社内の環境や意識を変えるために神奈川県相模原市にあるトヨタ自動車OBが設立した㈱カイゼン・マイスター（神奈川県）のアドバイザーを招聘して、現場カイゼン指導（全６回）を行った。過去にはカイゼン活動を取り入れようと取り組みを試みたこともあったが、仕事の忙しさからうまく根付かなかった。

指導では初回に製造現場の現場診断を行い、カイゼンリーダー、サブリーダーを決定して本活動を開始した。リーダーが中心となって製造現場における問題点の抽出を行い、その問題点の解決に向けた指導、進捗状況の確認等を繰り返し行うことで現場カイゼンに努めた。

一方では、大阪や東京の展示会に出展して販路開拓支援に務めた。来場者と商談することで客先のニーズや改めて自社の強み弱みを認識することができた。

支援の効果

社内の意識を高めるために従業員に対して座学を行ったり、個別に従業員に声かけ指導したりするなどして、徐々に社内に浸透させていった。

本活動に取り組んできた結果、以前と比べて工場内の雰囲気が変わり、通路や作業場が整理整頓され、工場入り口付近には改善実施事例が張り出され情報共有されるようになった。また若手のカイゼンリーダーを中心に対外的に発表会や見学会を行い、社員のレベルアップにも繋がった。

展示会では半導体製造装置に使用される製缶フレーム等を展示し、当社が得意とする精密加工技術のPRを行った。その結果、商談が結びつき、来場者の売上に結びついた実績もできた。また客先からの難しい案件にも取り組み、会社の技術力向上にも貢献している。

今後の展開

現在、当社では新工場の建設に向けて動いている。なかなか人材確保が難しい昨今、これまで培ってきた技術を伝承しながら新技術・製品、新規顧客にも対応できる体制を創り上げていくことが重要である。

現場カイゼンと販路開拓は、両輪となっており、現場カイゼンをすることでムダをなくし、品質、コスト、納期の生産性を向上させ競争力強化する。これを持って展示会でしっかりと強みをPRしつつ新たな受注を獲得する。その中でより付加価値の高い仕事にもチャレンジして、技術向上を図る。それには常に現場で問題意識を持ち、現状を少しでも良くしていこうとする現場カイゼンの継続的な取り組みが必要不可欠である。

事業者の声

代表取締役社長
秋田　華佳

現場カイゼン活動はリーダーを中心に成果が見え始め、ようやくスタートラインに立ったところです。今後はいかに意識を高めつつ継続させていくかがカギだと思っています。

展示会には時代のニーズに合わせて新たなモノを出展できるように努力していきたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

支援者の声

えひめ東予産業創造センター
矢葺　広和

以前と比べると工場も見違えるようにキレイになり、社内の雰囲気も変わりました。これらを継続しつつ、生産性を向上する取り組みに徐々に挑戦してもらいたいと思います。展示会では継続して出ることで来場者にも認知され、社員教育にも繋がっていると感じます。これからの成長を期待しています。